

審査の結果の要旨

氏名 外川 修

本研究は、悪性胆道閉塞に対する金属ステント留置後に生じるステント不全への適切な再インターベンションの strategy を検討するため、ステント不全に対して再インターベンションを行なった 128 例における再インターベンションの成績を、閉塞率、開存期間、合併症について検討を行い、下記の結果を得ている。

1. ステント不全を来たした **uncovered metallic stent** に対する再インターベンションでは、**uncovered metallic stent** の中に新たなステントを挿入する “**stent in stent**” で留置した **covered metallic stent** が、同様にして留置した **uncovered metallic stent** や **plastic stent** と比べ長期の開存性を示し、その有用性が示された。
2. ステント不全を来たした **covered metallic stent** に対する再インターベンションでは、**covered metallic stent** を用いた再インターベンションが最も長期に開存していたが、有意差を認めたのは **plastic stent** と比較した場合のみであった。
3. **Covered metallic stent** のステント不全時に行なった再インターベンションの不全に関与する因子の解析では、初回金属ステントの不全の原因が胆泥もしくは食物残渣での閉塞であることが危険因子として同定された。この胆泥もしくは食物残渣で閉塞した症例での解析では、初回金属ステントを抜去し新しい **covered metallic stent** に交換した群と初回金属ステントは抜去せずに内部をクリーニングしたのみの群の間に開存期間に有意差は認めず、胆泥もしくは食物残渣で閉塞した場合に閉塞した初回金属ステントを抜去すべきか否かについては明らかにはならなかった。

以上、本論文は悪性胆道閉塞に対して留置した **uncovered metallic stent** のステント不全時に **covered metallic stent** を用いることの有用性を明らかにした。**Covered metallic stent** のステント不全時においても、**covered metallic stent** を用いた再インターベンションが有用である可能性を示し、今後の悪性胆道閉塞に対する治療法の向上に貢献すると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。